

米国カリフォルニア州 労働集約的な核果類を他の作物に転換

FreshPlaza 2024年7月3日

労働集約的な作物を機械収穫可能な作物に転換

これまでのところ、今シーズンのカリフォルニア州の核果類の生育条件は最適であった。春には適量の雨が降り、山岳部の積雪量も多かったため、灌漑用水として十分な水が確保できた。また、気温は比較的穏やかである。様々な核果類を有機栽培するオルソン家族農場のマグナス・オルソン氏は、「しかし、その状況は急速に変化している。予報では、今後10日間、毎日華氏110度(43℃)以上になる」と言う。こうした温度は、通常、果実の成長を止め、成熟を過度に早めて果実に影響を与える。(以下「」は同氏の発言)

労働力には余裕

このような猛暑の日には、危険な労働環境を回避するため、労働者らは早朝から果実の収穫を開始し、午後の早い時間までに完了する。「今年は、果実を収穫する十分な数の労働者を見つけることがそれほど問題でなかった。実際、例年に比べてはるかに簡単であった。」その理由は、労働集約的な作物の多くが撤退し、機械収穫できる作物に転換されたことである。例えば、核果類はアーモンドやピスタチオに取って代わられつつあり、手摘みが必要なブルーベリーの種類は、機械収穫ができる品種への転換の余地がある。「人件費は最大の投入コストの1つであり、労働者を見つける難しさもあって、多くの生産者は長年にわたって労働集約度の低い作物に転換する決定を下してきた。」

地表水

灌漑は、生産者にとってもう一つの大きな出費である。「過去2シーズンは、地下水を汲み上げる代わりに地表水を利用できたことが非常に幸運であった。本当に乾燥した年には、シーズン中ずっと地下水に頼っていたこともあった。」しかし、それらの地下水はタイムリーには補充されない。「これらの地下水源が再び満杯になるには、何年にもわたり十分な降雨が必要である。」何年もの間、水を得るために井戸をどんどん深く掘らなければならなかった。「深さ30~40フィートの井戸から水を汲み上げた場合、1年か2年十分な雨が降れば水位が戻ってくる可能性がある。しかし、深さ300フィートや400フィートの井戸の水位は、一生かかっても元に戻らないかも知れない」

供給が需要を上回っている

多くの核果類の樹が引き抜かれているということは、供給が少なく、価格が高いということだろうか? 「イエスでもあり、ノーでもある。去年は供給量が比較的少なかったため、引き合いが強く価格が上昇した。」一方、今年を着果が良く、生産量も増加している。「供給が需要を上回る状況にあり、小売業者らはより選択的になるという贅沢を享受している。彼らは大きなサイズの果実を好むが、今シーズンは小玉の果実よりもはるかに値段が高い。」全体的に、今シーズンは去年に比べてはるかに競争が激しくなっている。

夏の盛りであるが、モモ、ネクタリン、スモモの需要は7月4日(独立記念日の祝日)以降になると減少すると予想される。「私にとっては、ジューシーなモモに勝るものはない。それは本当に夏の味覚だ。しかし、消費者の購買行動は徐々に変わり始める」。

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)